



ダメって言いながら
イっちゃうなんて、



皆に見せるのが
そんなに興奮
しちゃったんですか？

ちがっ…
これは…



さて、続けまじょうか
ちよっ…？！



や、やめて…もう
無理ですっ…！
さっきイっちゃった
ばかりなのに…っ！



そんな…！

俺がまだ気持ちよく
なってないんですけど？



オナニーだから
知らないでしょうが…

セックスにも
マナーというものが
あるんだよ!!

えええっ!?

まさかそれ…
お姉ちゃんの話…!?





ぬりやの

さっきまで
届かなかった
ところまで…!

バカに
なっちゃう…っ♡

なんでって

君のお姉さんの
「足りないところ」を
代わりに補って
もらいたいって話です

やってくれるよねっ？
「ハヤカちゃん」？

…姉さんの彼氏を寝取ることだろ…？

ほ、僕が…姉さんの代わりに…？
それって結局…っ

どきどき

初めては
お姉ちゃんの下着

その後は
お姉ちゃんの制服

その後は
お姉ちゃんのおモテヤ

そして姉の
彼氏も、
名前までも奪って……
本当に僕は最低な弟だ……

なのに、

どうして……こんなに興奮してるんだ……？

あぁっ……
出たばかりなのに
我慢汁でちゃう……







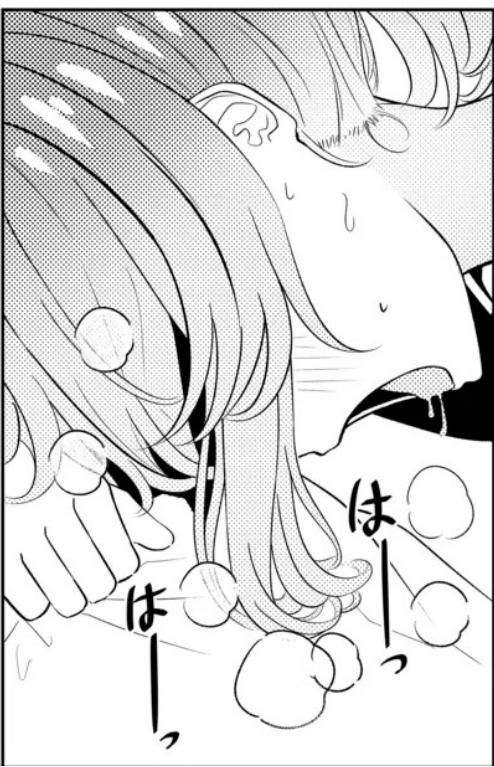
「君のほうがずっと可愛いから」
その言葉が、彼の頭の中を
ぐちゃぐちゃにかき回した。



それは「女めたい」とか
「女の子に見える」なんて
言葉とはまるで違う——



彼が意識的にも、無意識的にも
模倣していた姉よりも、
いや、もしかしたら
「本物の女」よりも、自分のほうが
可愛いかもしれないという
可能性に気づいてしまった
瞬間だったのかもしれない。



「メス」への、もう「一歩」。

ハヤカちゃん、
でるよー！

うん！



宿性だけで続いていた
倦怠期のカップル。

そこに割って入ったのは—
思いもよらぬ快樂、
同性との交わりだった。

彼女の代わりを求めていた貴座さん。

男との行為を密かに妄想していた
はやと先生。

二人の背徳的な欲望が絡み合ううちに
理性を支えていた倫理観は、
ゆっゆと崩れている—。